

The
CIRCLE

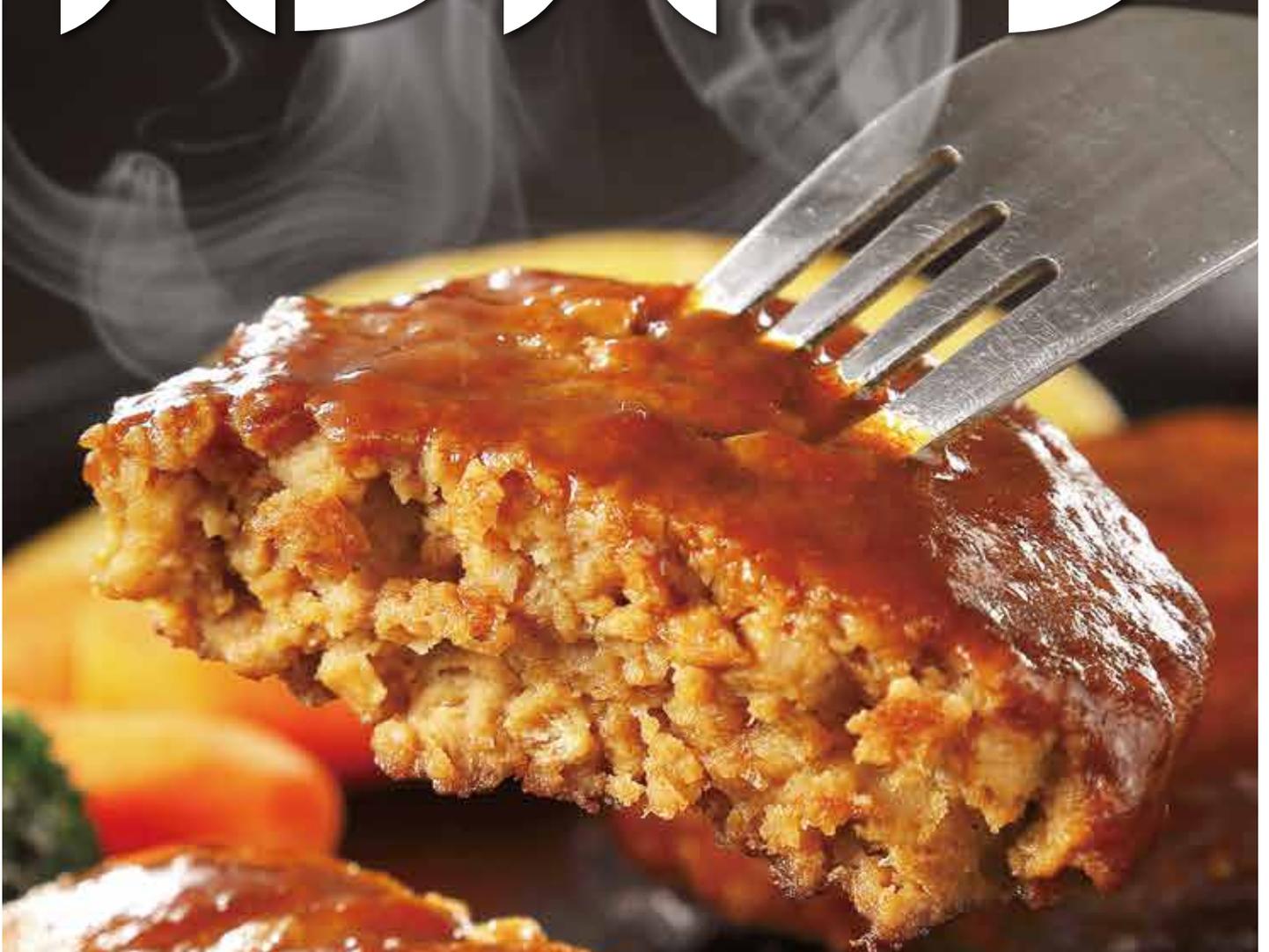
TOCHIGI TOYOTA

ドライブ情報誌&総合カタログ

ザ・サークル

Vol.167

みんな大好き ハンバーグ



栃木の歴史的建造物を訪ねて 瀧澤家住宅 (さくら市)

みんな大好きハンバーグ

ハンバーグの起源は、18世紀頃ドイツのハンブルクで労働者に人気のあったタルタルステーキだと言われています。タルタルステーキは、騎馬民族タルタル人が食べていた生肉料理を原型としています。タルタル人は、硬い肉を食べ易くする工夫として、生肉を細かく切り、玉ネギ、コショウ等香辛料で味付けして食べていました。ドイツに伝わったこの料理法は、牛肉・豚肉の合挽き肉に香辛料や玉ネギ、つなぎのパン粉が入った私たちの知るハンバーグの形になっていきます。

アメリカに移住しました。アメリカに渡った彼らが、食べているひき肉料理をアメリカ人は、「ハンブルク風ステーキ（ハンバーグステーキ）」と呼ぶようになりました。

日本では、明治の文明開化の時代、肉食が奨励され、洋食レストランには「ジャーマンステーキ」「ミンチボール」といったメニューにあったようです。

1950年中頃には、一般的な家庭料理となり、さらに、インスタントやチルドハンバーグが登場により、子どもを中心に広い世代に人気のメニューとなっています。



レストラン フィールド
 宇都宮市西川田町71-5 ☎028-645-5380
 AM11:30~PM3:00 (L.O.) / PM2:30
 PM6:00~PM10:00 (L.O.) / PM9:00
 水曜定休 @27台



■オーソドックスを極めた、贅沢なハンバーグ

ジューシーで、柔らかくて、どこか懐かしい美味しさにうっとりさせられる、同店の『ビーフハンバーグステーキ(1,595円)』。オーナー自身が「オーソドックス」と表現する通り、上質な肉をたっぷり使った手作りの味わいです。ソースは和風ステーキ

ソースとデミグラスソースの2種類から選べ、パンまたはライス付き。そのほか冬季には限定の『ロールキャベツのグラタン(1,320円)』など、人気メニューも魅力的。

Wild Barn
 ウィルドバーン
 宇都宮駅東店
 宇都宮市元今泉4-14-14 ☎028-610-0266
 AM11:00~PM10:00 (L.O.) / PM9:30
 無休 @40台
 www.kanseki.co.jp/store/wildbarn/



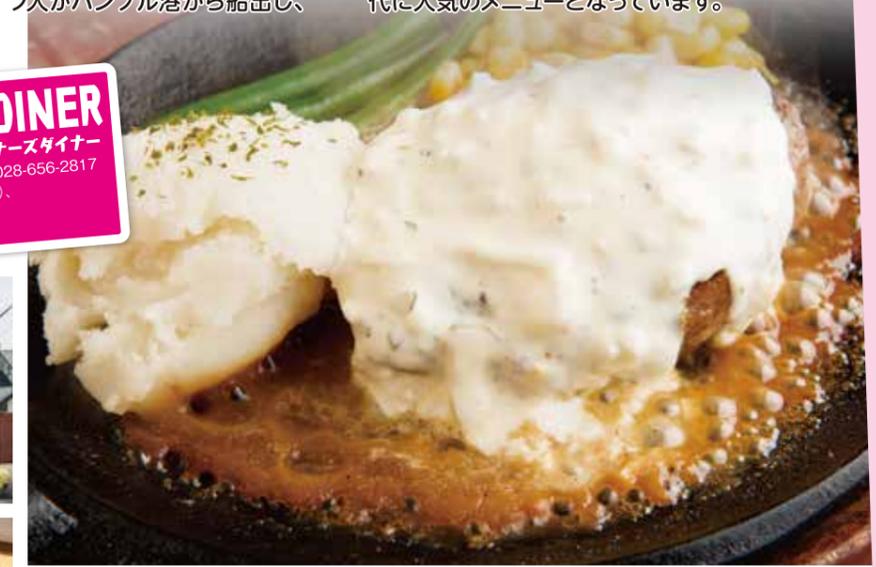
■秘伝のオリジナルソースは

老若男女から愛される味

ボリュームあるハンバーグにサラダが付く『ハンバーグプレート』は満足感があり、子どもからシニアまで幅広い世代に人気のメニューです。和風やデミグラスなど6種類のなかでも、創業当初から変わらぬ伝統ソースの『ベーシックハンバーグ(869円)』が一番人気。しょう油やゴマなどをブレンドしたコク深いソースが食欲をそそります。平日のランチは豚汁も付き栄養満点です。



TONER'S DINER
 トナーズダイナー
 宇都宮市下栗町967-1 ☎028-656-2817
 AM11:30~PM2:00 (L.O.) / PM6:00~PM8:30 (L.O.)
 水・木曜定休 @14台



■一度食べると病み付きのダブルソースが決め手

アメリカンダイナーの雰囲気が漂う店内で、厳選した素材を使い、熟練の技で仕上げる自慢のハンバーグが味わえます。ナイフを入れた瞬間から溢れる肉汁に期待も高まります。『タルタルソースハンバーグ(900円)』は玉子をたっぷり使用した自家製タルタルソースと、しょう油ベースのステーキソースの相性が抜群です。リピーター続出の味をぜひどうぞ。

ハンバーグの店 かぶちーの
 宇都宮市東宿郷6-6-13 ☎028-635-9161
 AM11:30~PM3:00
 火曜定休 @4台

■チーズと絶品デミグラスの

ふっくらビッグハンバーグ

喫茶店のような懐かしい雰囲気の専門店。40年間愛され続ける手作りハンバーグは250gのビッグサイズ! 5種類すべてのメニューでジャンボサイズ(350g)も楽しめます。熱々チーズに覆われた『チーズハンバーグ(850円)』は、シンプルな味付けのハンバーグに、牛スジを加え煮込んだデミグラスソースが心地よく絡む一品。やわらかな食感とジューシーなうまみにお腹も心も満たされます。



KITCHEN 菜胡野家 なごやか
 大田原市佐久山4328-58 ☎0287-28-2226
 AM11:00~PM2:30 (L.O.) / PM2:00
 PM5:00~PM9:00 (L.O.) / PM8:00
 ※平日は昼・夜ともに席の予約可。土日は夜のみ席の予約可。火曜定休 @有り

■古民家でいただく熱々・ジューシーなハンバーグ

築70年の古民家を移築し改装した店舗は、日本古来の趣きのある雰囲気。そんな店内で楽しめるハンバーグは全5種類。いずれもグツグツ煮立った熱々で提供されます。スタンダードな『定番シチューハンバーグ菜胡野家風(1,350円)』はデミソースたっぷり。ほかに木のこソース、トマトクリーム、おろしポン酢、トマトカレーなどもあり、老若男女に評判です。





Grill & Steak 妙月坊 みよづけっぽう
 日光市山内2381 ☎0288-25-5025
 AM11:00~PM7:30(L.O.)
 水曜定休 ㊿有り

■日光名物の生湯波とビーフの絶妙な相性
 宿坊を改装した店舗は、日光山内の厳かな景観の中にひっそりと佇んでいます。ここでは厳選した素材を使ったステーキやハンバーグなどが堪能できます。『たっぷり生湯波を添えたビーフハンバーグ(2,530円)』は、肉汁たっぷりのハンバーグととろとろとした食感の生湯波が絶妙にマッチした一品。さっぱりとしたたまり醤油を使ったソースとの相性も抜群です。



STEAK & WINE WEST WOOD ウェストウッド
 真岡市並木町1-9-9 ☎0285-82-2558
 AM11:30~PM3:00(L.O./PM2:30)
 PM5:00~PM10:00(L.O./PM9:30)
 火曜定休(祝日の場合は営業) ㊿有り
 ※小学生未満入店不可



※写真のメニューはグランドメニューです。ランチ営業時間はオーダー不可。

■店名を冠したボリューム派も納得の一皿

真岡駅から程近い場所にある人気店です。見た目にもインパクトのある『ウェストウッズスペシャルハンバーグ(300g1,900円)』は、巨大なハンバーグに、チーズと目玉焼き、ベーコンをトッピング

グシ、評判のスペアリブ、チキンステーキが一枚の鉄板で楽しめます。ソースは和風、トマト、カルビ、デミから1種選べます。ボリュームで食べ応え抜群です。

タカギ商店
 茂木町茂木1596 ☎0285-81-5970
 AM11:00~PM2:00
 PM6:00~PM9:00(L.O./PM8:00)
 月曜定休ほか不定休有り ㊿15台



■牛肉100パーセントで肉のうまみを存分に堪能できる

毎日ブロックから粗挽きにする牛モモ肉の挽肉に、上質な脂身をあわせ、ふんわりと焼き上げた牛肉100パーセントのハンバーグは、肉汁をたっぷり閉じ込め、噛むほどに肉の濃厚なうまみが楽しめます。甘みと酸味を活かしたソースは肉の味を引き立てるデミグラスソース。脇を固めるのは彩り豊かな野菜と古代米入りご飯。ランチはサラダ、ドリンク付きで1,485円(180g)からです。



洋食家 番館坂 ばんかんさか
 小山市中久喜246-4 ☎0285-25-3648
 AM11:30~PM2:30(L.O.)
 PM5:30~PM10:00(L.O./PM9:30)
 月曜定休(祝日の場合翌日) ㊿9台

■Wチーズとろけるふっくら和牛ハンバーグ

チーズイン和牛ハンバーグの先駆けとして知られる、昭和60年創業の洋食店。20日間じっくり煮込んだデミソースの『黒』、トマトソースの『赤』など3種から選べる『番バーグ(1,320円)』が人気で、中でもゴーダチーズ入りホワイトソースの『白』は、寒い季節にぴったり。あふれ出る肉汁のうま味とソースの甘み、とろける2種チーズのコクが一体となり、魅惑の味を奏でます。



ファミリーレストラン UAN・B ハンビ
 鹿沼市東町2-2-38 ☎0289-62-9218
 AM11:00~PM10:00(L.O./PM9:30)
 ※ランチはPM3:00まで
 第2・3木曜定休 ㊿有り

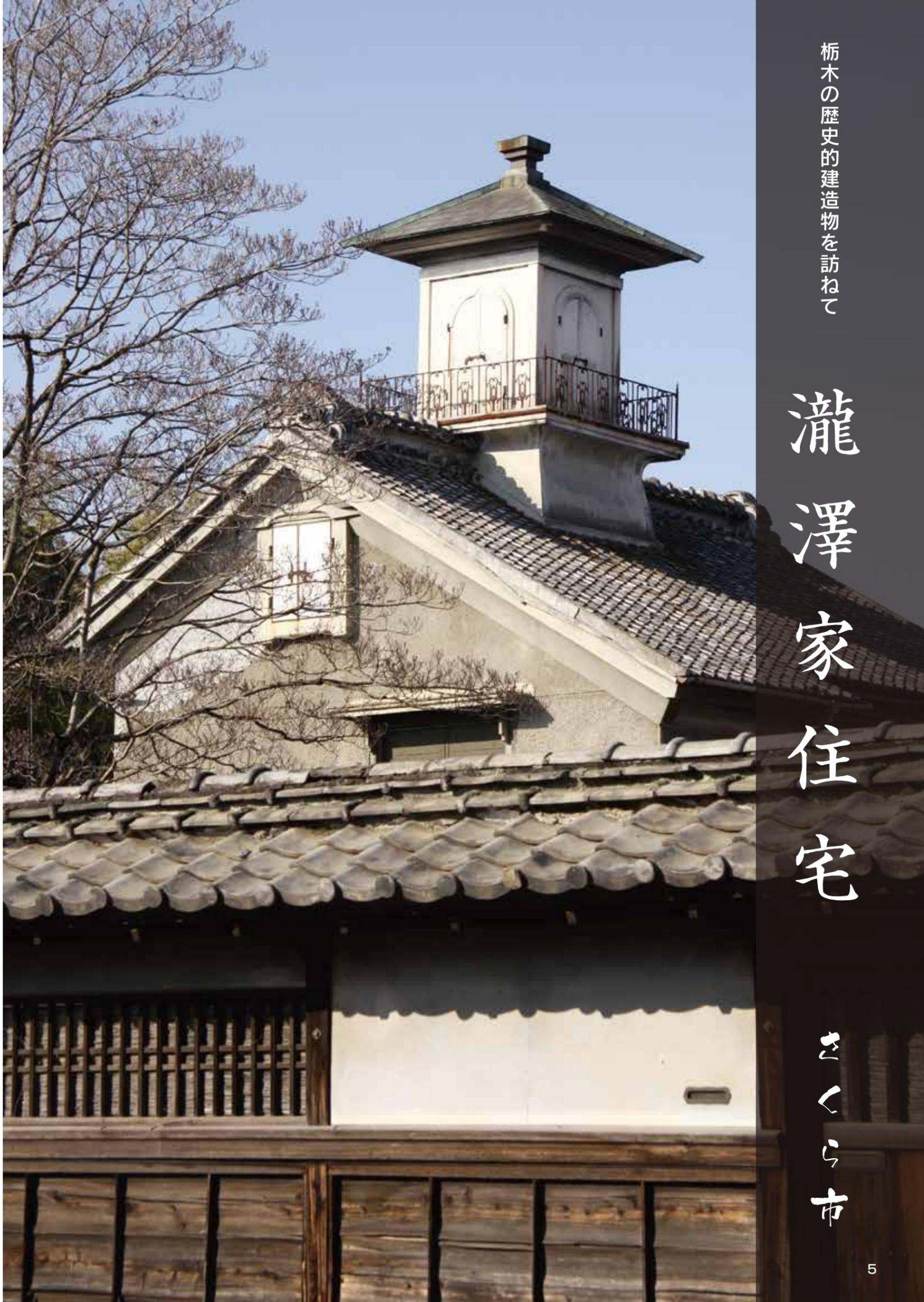


■老舗洋食店の“変わらない味”を求めて

創業から35年を超える老舗レストランで、家族3代で訪れる客も少なくないそうです。洋食一筋のシェフが作る『ハンバーグステーキ180g(759円)』は牛肉と豚肉の合挽きを使用。

手作りにこだわっていて、肉のうまみと柔らかな食感が特徴です。ハンバーグステーキはほかにもジャンボやイタリアンなど多彩な種類があるので、選ぶのも楽しみのひとつです。

瀧澤家住宅



旧奥州街道氏家宿に往時の栄華を 偲ばせる近代日本建築の傑作

さくら市旧氏家町、奥州街道沿いに巡らされた板塀と長屋門が旧街道の名残を感じさせます。堂々たる構えの長屋門は、間近に見ると、その豪壮な造りに圧倒されます。この地方に現存する長屋門のなかでも最大級の規模を誇り、その造りも江戸時代の武家屋敷に倣った本格的なものです。門扉の金具に施された菊花の意匠が目を引きまます。

瀧澤家住宅を建てた瀧澤喜平治(1846～1916)は、明治期の栃木県を代表する実業家のひとりです。明治期の我が国の主力輸出品であった絹製品に着目し、養蚕業に着手。さらに、多くの企業や銀行の設立と経営に携わり、多大な業績を残しました。また、喜平治は実業家として活躍する一方で、上野原の開墾や、養蚕技術を教える養蚕伝習所の開設・雇用を行うなど、地域に大きな貢献をしています。さらに氏家小学校の広大な敷地や

改築費を提供しています。また、桜野地区に医師を招いて病院の開設も実現しました。

「鐵竹堂」は、明治33年に建てられた客殿です。瀧澤家は、明治25年(1892)の陸軍大演習の折、明治天皇の小休所となりました。この鐵竹堂は、再度の行幸に備えて建築されたと考えられています。その名は喜平治の雅号「鐵竹」が由来です。

建物は北側の庭園に面して4室をL字型に並べ、入口部分には車寄が設けられています。邸内には書院造の八畳間(御座の間)があり、二重の面取りが施された木材、4寸の角柱、床の間と違い棚、貼り付け壁に、素木の格天井など、当時最高の素材と匠の技が駆使されています。また、金地の山水画が描かれた襖も一見の価値があります。付書院から眺める庭の四季の風情も趣豊かで、大切な客人を心を込めてもてなす、贅を尽くした部屋であることがうかがえます。ちなみに隣接する漆塗りの便器を備えた厠は、今まで一度も使われたことがないとのこと。

このような書院造は、江戸時代の上流武家などには見られましたが、民間人の私邸として建設されるのは明治以降です。

西側の塀沿いには「蔵座敷」があります。明治20年の墨書が残る土蔵造りの屋根根部にひととき目を引く望楼は、明治25年(1892)の明治天皇の行幸を機に増築されたものと考えられています。望楼の外壁は漆喰で塗られ、4面に半円形の窓とその周囲に唐草模様の鉄柵を巡らし、洋風の意匠としています。

このような望楼は、明治初期から中期にかけて文明開化のシンボルとして学校や公共建築に普及し、当時は栃木県内の奥州街道沿いにも散見されました。この望楼も長年にわたる町のランドマークとして親しまれてきたものです。県内で現存するのはこの建築のみで、建築史の観点からも貴重な建物です。(※蔵座敷の内部は見学不可)

平成10年(1998)鐵竹堂・蔵座敷・長屋門の3棟が「瀧澤家住宅」として栃木県文化財に指定されました。



旧奥州街道に面した長屋門と板塀



鐵竹堂正面の御車寄



「控えの間」と、奥の「次の間」



貸出スペースは、講座や趣味の集まりなど文化活動・交流に利用可能です。

●「貸出スペース」は、各種講座やワークショップ、趣味の集まりなどに利用可(有料)。2020年1月19日(日)には「お琴の演奏会とワークショップ」(演奏会は入館料のみの100円、お茶席は入館料込みで300円)。2020年2月8日(土)～3月8日(日)は「氏家雑めぐり」が開催されます。



瀧澤家住宅

さくら市桜野1365
☎028-682-7123(さくら市ミュージアム
荒井寛方記念館 管理・文化財係)
AM9:00～PM3:30 ※入館はPM3:00まで
観覧料/一般 100円
休館日/月曜・第3火曜(祝日の場合は翌日
休館)、年末年始(12月29日～1月3日)
☎14台
<http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/site/sakura-museum/takizawake-information.html>



主室である「御座の間」



御座の間の付書院からは庭が眺められます。



蔵敷きの廊下の一角には、建物や瀧澤喜平治に関する資料が展示されています。

栃木の民話を訪ねて 第三十四回

綾姫ものがたり

大田原市

昔々、今から千年以上も前のことも知りません。

常陸の国(茨城県豊浦という港に、権太夫吉林という人が住んでいました。ある日、海へ魚を取りに出かけました。一日、魚こりをして、さて家に帰ろうとすると、沖の方に不思議なものが浮かんでいるのを見つけました。舟を近づけてみると、大きな木に一人の娘がしっかりと捕まって、死んだかのようになっているのです。

吉林は、かわいそうに思っ、家へ連れて帰り、真心こめて看病に努めました。その甲斐あって娘は三日ほど過ぎて、やっと気が付きました。

吉林は娘の枕元で、静かに聞きました。

「あなたはこの方ですか。いつか、こんなことになったのですか。せう少しで死んでしまつてしまったのです。心配はずにゆくりお休みなさいね。」

娘は喜びの涙に咽びながら、

「本当に、ありがたうございしました。私は遠い中国のある国王の娘で、綾姫と申します。」

王様の娘と聞いて、吉林は大変驚きました。

「それで、どうしてこんな海へ…。」

娘は目に涙を浮かべながら、

「私が、小さい頃のこと、優しいお母様が病気になったのです。私は、一生懸命看病してあげたのですが、とうとう死んでしまいました。それから、悲しくて、悲しくて…。」

吉林は涙を流して耳を傾けます。

「かわいそうに、それでどう…。」

「お母様は、あの広い広い海の果てににいるに違いない。そうだ、私はあの海の果てにいるお母様のところへ行こう。」

娘はうしろ向きに海へ身を投げ入れました。海の波にもまれて遠い中国からここまで流されて来たのです。吉林は、大変哀れに思いました。しかし、綾姫は吉林の手厚い看病の甲斐もなくそれから間もなく息を引きとりました。

吉林は近所の人々とともに、手厚く弔いました。お墓には、きれいな花をあげ、水をさして毎日日供養を続けました。

それから、しばらくたったある夜のこと、吉林は綾姫の夢を見ました。元気になった綾姫が、吉林の大好きな食べ物を持って来てくれたのです。

「綾姫、元気で戻ってくれて、よかったですね。今度は、私も楽しく暮らそうよ。さあ、こちらにおいで綾姫。」

あまりのうれしさに、吉林が姫のお墓へ行ってみますと、不思議なことに、お墓のそばに小さな毛虫がうごめき集まっています。

「これは、どうした何だるのう。」

よく見ていると、毛虫はそばの桑の木に、這い上がり、桑の葉を美味しくそうに食べているのです。今まで見たことのない毛虫を、吉林がじっと見つめていると、その虫は見る見るうちに桑の葉を食べてしまいました。

「不思議な虫だ。これは何というものだろう。」

吉林は家へ帰ってから、みんなにその話をして聞かせました。近所の人々も、初めて聞く話にりました。

ある日、村の人が、いつものような方法で姫から朱塗りのお椀を十人前、借り受けました。しかし、返す時になって、このお椀があまりにも立派なもので、返すのが惜しくなり、こっそり一人前だけ残して、何食わぬ顔で九人前だけ返しました。

ところが、その夜、突然大暴風になりました。山は崩れ、岩は飛び、大きな木が根こそぎ打ち倒されてしまいました。姫の御殿は池の底深く飲まれてしまい、後には何もなくなってしまいました。

次の日、この村人は心配になって、池へ来てみると、池のあたりは荒れ果てて、池の水は死んだように、ただ青く横たわって、姫の姿はどこにも見られませんでした。

村人は心を痛めて、じっと水面を眺めていましたが、ふと水面になにやら浮かび出たものがあるのが付きました。木の枝で寄せてみると、一つの包みのようでしたので、開けてみると、中には先に借りた朱塗りのお椀が入っていたのです。村人は、これは神様がくださったものだと思ひ、恐る恐る家に持ち帰り宝物としました。

ところが、それからというもの、この村人の家に不幸な出来事が続き、まもなく家も滅びてしまいました。

村の長者から、この不思議な話を聞いた宝道上人は、一度その御亭山に登ってみたいと思ひました。上人は村の長者に別れを告げ、御亭山へ登り出しました。

ところが、松や柏の木が茂り、茨の道で、とうしても前へ進めません。とうとう道に迷ってしまいました。

「うたて、困ったことになったぞ。どうしたものか。」

思い余って、道に佇んでいると、どこから来たのか、白い髭をのびた老人が現れました。

「私が御案内しましゅう、後についておいでなさい。」

老人は、そういつて先に立ち、山をのぼっていきました。宝道上人は後について、山の中腹にたどり着くと、そこには緑の水をたたえた池がありました。

白髭の老人は上人を振り返り、

「この池の底に、美しい姫がいて、絹を織っているから、その音を聞いてみるがよい。」

山のふもとで村の長者から聞いた池はこれかと、上人は不思議に思ひながら、池のほとりに近寄って耳を傾けると、かすかに

「うたて、うたて。」

と、音がするのです。たしかに、はたを織る音です。上人は息をこらして、じっとその音を聞いてみると、いつの間にか老人の姿は、どこにも見えなくなっていました。

すると、突然池の水が動き出し、その中から一匹の、大きな亀が現れました。

大亀は上人のそばへ寄ってきて、

「ういぞ、私の背中にお乗りください。さあ、さあ、さあ、案内いたしますしゅう。」

上人は心配顔で、亀の背に乗りました。

大亀は上人を乗せて、長い山道を奥深く進んでいきました。やがて一つの岩穴の前に止まりました。上人は、亀の背から下りて、穴の中を覗きこもうとすると、その中から、人がぶっと現れました。

「ちくへくへ見るよ、これはなんや、」

「おお、お前は吉林ではなごか。」

「ううううあなたは宝道上人か。」

二人は、不思議な巡り合わせに、驚いたり、喜んだり、しばらく抱き合っ、何から話をしていいのか分からないうういぞ。」

「それこそ、お前はどの御亭山…。」

ある日、吉林が魚を取りに出かけたところ、嵐にあつて舟が転覆し、もうだめかと思っていたとき、大亀に助けられ、この岩穴に連れて来られたということになります。

上人も、御亭山の池の不思議な話を聞かせ、夜のふけるのも知らずに語り合いました。

吉林は、じっとその話を聞いて、

驚きました。

その後、少したって、またお墓に行ってみると、今度は先ほどの毛虫は一匹もありません。その代わり、桑の木の枝に白い巣を作って、まるで雪が積もったようです。吉林は、また不思議に思っ、それを全部家へ持って帰りました。

吉林は家の宝物にしようと思ひ、大事にしまっておきました。しばらくして、それを覗いてみると、部屋の中は大変です。蛾がぶんぶん這い回っていて、どうすることもできません。それが村中の評判になってしまいました。

「悪いことが起る前知らせかも知れぬ。」

「いや、あれは綾姫の身代わりかも知れぬぞ。」

村の人々は、この話でもちきりです。

その頃、常陸の国の筑波山に、宝道上人という大変学問の優れたお坊さんが住んでいました。村の人々は、この不思議な話を宝道上人に聞いてみることにしました。

上人は人々の話をよく聞いていましたが、なにこして、

「その毛虫は、蚕というものでしょう。そして白い巣は繭というのです。繭からは美しい糸を取る事ができるのです。それにしても、不思議な話ですね。」

吉林の村の人々も、初めて蚕の話を知ってもらい大喜びでした。吉林と上人は蛾が生みつけた卵を分け合い、この土地に蚕を飼って絹織物を作ろうと、みんなで相談しました。

さて、この宝道上人は、それから旅に出ましたが、国々を巡り歩き、いく年か経って下野の国が那須野が原に辿りつきました。広々とした原、遠くの北西の方に煙を吐く山々が連なり、東にはなだらかな山々が続いています。そこを清流が一筋とおつて、美しい水をたたえています。

宝道上人は、絵のようなこの眺めを、大変気に入りました。

「あの雲に包まれた美しい山の名は何と言うのか、わしはあの山が気に入った。ぜひ登ってみたいのだが。」

村の長者にたずねてみると、長者は、

「あの山は御亭山と申します。あの山には不思議なことがあるのです。お話し致しますしゅう。」

長者は静かに語り出しました。

遠い昔のこと、あの御亭山に、いつぞうから来たのか、一人の姫が住むようになりました。姫ははた織をしていましたが、それが大変上手で、その噂が遠くまで響くようになりました。村の長者はこれを知りて、御亭山の中腹の池の近くに立派な御殿を作って姫を住ませました。

姫は大変優しく、近所の人々が困っていると、いろいろの自分の持ち物を分けてやりました。村の人々は、自分が欲しい品物のあるときは、すぐ姫のところへ行っ借っていたのです。

それは、自分で必要な品物の名前を短冊に書き、この池に浮かべておくと、次の朝、その品物が池の面か、池の近くに必ず置いてあります。村人は、用事がすむと、その品物を姫の御殿の前に返して置けばよいのでした。

しかし不思議なことには、姫はこの世の人とも思われぬ程の美しい人であると言われているだけで、まだ姫の姿を見た人が一人もいませんでした。そのため、いつしか姫は、龍の化身ではあるまいかと言われて、近くの人々から恐れられたり、ますます敬われたりするようになります。

「上人、その池の御殿に住んでいたという姫は、私が先に海で助けた綾姫ではないだろうか。」

上人も、静かに、こっくりうなずきました。

二人は、力を合わせて、この土地に養蚕を盛んにしよう相談していました。吉林が、前からしまつて、おいた蚕の卵を取り出してみると、小さな毛虫が動いています。

二人は、力を合わせて、この土地に養蚕を盛んにしよう相談していました。吉林が、前からしまつておいた蚕の卵を取り出してみると、小さな毛虫が動いています。

二人は、山の中へ桑の葉を探しに出かけましたが、一本の桑の木も見つかりません。

「困ったなあ、困ったなあ。」

二人は疲れ果てて、洞穴へ帰って来ました。一日中探し歩いた疲れで、そこへ、ごうりと寝てしまいました。

すると、どこから来たのか、吉林の前に、あの綾姫が姿を現したのです。

吉林は驚きのあまり、姫に呼びかけることもできません。すると姫は、

「この山を下りて行くと、驚の鳴く谷間があり、そこに桑の木があります。そこへ行っ行ってごらんなさい。」

吉林は、久しぶりに綾姫の姿を見て、懐かしくなり、涙を流してじっと見ていると、姫はここにこしながら遠くへ去って行ってしまいます。吉林は驚いて、手を差し伸べ、

「綾姫…綾姫…。」

ありったけの大きな声を出して叫びました。しかし、それは夢だったので。

翌朝、二人はさそく谷へ行ってみます。すると、そこに大きな桑の木がありました。小躍りして、二人は桑の葉を取って引き返し、蚕に食べさせました。蚕は日に日に大きくなり、やがて繭を作るようになりました。

吉林は、夢で会った綾姫のことを忘れることができません。明日はできた繭を集めようと思っ、床につきました。

「かわらんこと…。」

と、はたを織る音が聞こえてきます。吉林はその音を頼りに行ってみますと、綾姫がはたを織っているではありませんか。

と、大声おあげて走り寄りました。

「吉林どの。大変お世話になりましたお礼に、織物の作り方を教えますから、村の人たちに伝えてください。」

と、言っ、繭から糸を取る所へ案内しました。

綾姫はここにこしながら吉林に繭から糸を取ることを教えました。次には、その糸を縦糸にして並べて、筒に巻きつけたものをはたに取り付けて織るところまで見せてくれたのです。吉林は綾姫の手際のよいのにただ見とれておりました。綾姫が、

「お分かりますか。今度は、この糸ついで織って行くのです。」

と、言ってはたを動かすと、「からりん、こ…。」と音がします。素晴らしい絹織物がだんだん出来ていきます。

吉林は思わす、

「綾姫、お前も一緒に来てくれないか。そして村人に教えてくれないか。」

と、話した途端、夢から覚めてしまいました。

このことを早く上人様に話そうと、床の中で夜の明けるのを待ちました。糸の取り方や縦糸の並べ方などが、目を瞑るとありありと浮かんでくるのですが、綾姫の姿は出て来ません。じ

間もなく、二人は、を下りました。そして、村の人々に絹織りの仕方を教えました。この土地の絹織物は、那須絹と呼ばれて、その言われは昔の本にも書き残されています。

喜ばれる

手みやげ研究室

主役は栃木県産とちおとめ旬のおいしさそのままにホワイトチョコで包み込む

冠婚葬祭や宴会などのサービスを提供する「フォーシーズン静風」は、作付け面積、出荷量ともに日本一を誇る真岡市で、栃木県産とちおとめ100%使用のお菓子作りにこだわった商品を製造・販売しています。



『恋するいちご』は、イチゴが一番おいしい1月～3月上旬に収穫された、栃木県産とちおとめの2Lサイズのみを使用。旬の美味しさを蓄えたままの状態でフリーズドライし、周りをホワイトチョコレートでコーティングしています。サクツとした食感の後ホワイトチョコレイトと混じりあうように溶けだす、イチゴ本来の甘みと酸味がたまりません。パッケージもかわいらしく、ギフトにも人気です。10個入1320円です。

株式会社 静風 『恋するいちご』



販売店
●緑-ENISHI- JR宇都宮駅ビルバセオ 1F
●日光ニコニコ本陣 日光市今市719
●TOKO-TOKOマルシェ 大田原市中央1丁目3-15
●道の駅しもつけ 下野市薬師寺3720-1
●道の駅にのみや 真岡市久下田2204-1 など
株式会社 静風
〒321-4306
栃木県真岡市台町11-8
☎0285-82-3388
<https://ichigogashuyaku.com/>

岩上商店 『あまさけ』

プライベートでもビジネスでも、フォーマルでもカジュアルでも、様々な場面で、場を明るく和ませるのが、気の利いた手みやげ。絶対はずさない「手みやげ」を研究・発表します。

原料は米と米糨だけ「飲む点滴」ともいわれる栄養満点の自然食品

創業160年、栃木県味噌品評会において10年連続で県知事賞を受賞するなど、風味の良い味噌や地酒の販売、糨製造を行っている「岩上商店」。国産米から作った自慢の純粋こうじを使い、砂糖などの糖類不使用、お米だけの甘さで仕上げた「あまさけ」は、こだわりの一品です。

原料は、大田原産コシヒカリと米糨、那須野が原の伏流水だけ。ノンアルコールなのでお子様も安心して楽しめます。フレーバーは定番の白米のほか、玄米・いちご・小豆・かぼちゃ・ごま・きなこの全7種。お好みを選んでギフトセットにすることもできます。白米あまさけ(500ml)590円、小豆(500ml)640円、いちご(500ml)870円(税込)。



大田原市中田原1238
☎0287-22-2224
AM9:00~PM6:00
定休日 曜・祝日 定休・月曜(不定期休)
<http://iwakamishoten.jp>